

太田川再生方針に基づく取組の今後の実施について

1 目的

現在までの太田川再生方針に基づく取組の実施状況とその成果を整理し、長期的な方針に基づく取組の継続的な実施を検討するとともに、短期的、中期的な方針に基づく取組の効果的なフォローアップを行うものである。

2 太田川再生方針に基づく取組の実施状況、成果及び今後の方針（案）

区分		平成26年度～平成30年度までの取組の実施状況・成果					今後の方針の検討				
		名称	検討内容	開催状況（年度）					成果等	今後の方針（案）	課題・検討事項等
		H26	H27	H28	H29	H30					
		年2回	年2回	年1回	年1回	年2回 (予定)					
太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会	太田川再生方針に基づく取組の検討						<ul style="list-style-type: none"> 太田川再生方針に基づく取組の推進とそれに伴う効果検証調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 広島市が事務局として懇談会を継続し、年1回開催する。 懇談会と水管理部会を統合する。 短期及び中期的な方針の報告と長期的な方針の検討を行う。 必要最低限の調査のみ継続して、方針の効果検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでと同一規模の予算確保が困難（広島市） 限られた予算の中での取組・効果検証調査の検討 長期的な方針の現実的な実施を見据えた懇談会の期間設定 根拠に基づく具体的な目標値の検討（漁獲量等） 資源回復後の方針（市民PR、消費拡大策の検討） より効率的な利水運用の検討 		
	同水管理部会	アユを増やすための長期的な方針の検討								<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から高瀬堰の試験運用が開始された。 	
取組内容	取組実施者	効果検証実施者	実施状況（年度）					効果検証結果	今後の方針(案)		課題・検討事項等
			H26	H27	H28	H29	H30		方針に基づく取組	効果検証調査	
短期的な方策	太田川漁協 広島市	広島市						<ul style="list-style-type: none"> 由来判定の結果、遡上アユに余剰種苗が含まれており、アユ資源増大へ寄与していることが示唆された。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁協が中心となり取組を継続し、広島市がサポート。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングの継続（漁協、広島市） 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップの方法（効率的な効果検証調査の検討等）
			<ul style="list-style-type: none"> 産卵場の維持造成 	<ul style="list-style-type: none"> アユの産卵に適切した産卵場が造成され、産卵されていることが確認された（産卵面積/造成面積 171㎡/200㎡）。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁協が中心となり取組を継続し、広島市がサポート。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングの継続（漁協、広島市） 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップの方法（効率的な効果検証調査の検討等） 				
中期的な方策	太田川漁協	広島市						<ul style="list-style-type: none"> 取組により、親魚の個体数が増加し、流下仔魚数も増加することが期待されているが、推定流下仔魚数と取組との相関は、確認できていない。 目視では親魚の飛び跳ねが産卵時期にも多数確認されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁協が中心となり取組を継続し、広島市がサポート。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングの継続（漁協、広島市） 	<ul style="list-style-type: none"> 禁漁区間拡大の検討（3川合流まで） フォローアップの方法（効率的な効果検証方法の検討等）
			<ul style="list-style-type: none"> 禁漁区・期間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 産卵期禁漁区間を高瀬堰まで拡大 							
長期的な方策	国交省 広島市	国交省 広島市						<ul style="list-style-type: none"> 高瀬堰において、アユ仔魚の流下のピーク時間が約1時間短縮されることが示唆された。 	<ul style="list-style-type: none"> 運用の継続には、懇談会の継続及び市の効果検証調査の継続が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 流下仔魚調査、流速調査 等 ※ 予算に応じた内容の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な効果検証方法の検討。 本運用に向け科学的データの蓄積 根拠に基づく具体的な目標値の検討（流速等） 親魚の流下を促進する運用の検討
			<ul style="list-style-type: none"> 高瀬堰の運用 	<ul style="list-style-type: none"> 試験運用 							
短期的な方策	内水面漁協 広島市	広島市						<ul style="list-style-type: none"> 塩ビ管による育成手法が、種苗の生残率が高く、シジミの保護に有効であることが判った。 現在のところ、資源の回復はみられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁協が中心となり取組を継続し、広島市がサポートする。 人工種苗の本生産開始 塩ビ管で人工・天然種苗を活用した母貝保護の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 広島市で資源量調査を継続 	<ul style="list-style-type: none"> 食害生物の効率的な除去方法の検討。
			<ul style="list-style-type: none"> 祇園水門・大芝水門の運用 	<ul style="list-style-type: none"> 水管理部会による実施に向けた検討 運用見送り 	<ul style="list-style-type: none"> 試験的な運用の検討（塩水遡上に配慮した運用の検討） 	<ul style="list-style-type: none"> 流下仔魚調査、塩水遡上の確認 等 ※ 予算に応じた内容の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 運用に伴う塩水遡上のリスク アユ稚魚遡上時の運用 太田川放水路の生息環境の把握（餌環境、生息場所に関する科学的な知見） 				
中期的な方策	内水面漁協	—						—	未定	未定	<ul style="list-style-type: none"> 食害対策を行わないと禁漁による方法だけでは、資源保護が困難。
			<ul style="list-style-type: none"> シジミの育成に適した浅場の整備 	—	—	未実施	—				